

会 議 録

1 会議名

令和元年度第6回谷浜・桑取区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

【報告事項】

- ・公の施設の使用料改定について（公開）
- ・今後の「公の施設の再配置計画」の取組について（公開）

【協議事項】

地域の課題について（公開）

3 開催日時

令和元年10月29日（火）午後6時30分から午後7時37分

4 開催場所

上越市立谷浜・桑取地区公民館

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員： 高橋誠一（会長）、安達ユミ子（副会長）、佐藤寿美子、佐藤峰生、
坪田 剛、荷屋和夫、樋口清和、平野宏一、山田ヒロ子、横田正美
（欠席2名）
- ・事務局： 北部まちづくりセンター：滝澤センター長、小池係長、霜越臨時職員
社会教育課：川上参事、片所主任
行政改革推進課：小酒井副課長、内海主任

8 発言の内容

【滝澤センター長】

- ・会議の開会を宣言
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

【高橋会長】

- ・挨拶
- ・会議録の確認：佐藤寿美子委員に依頼

議題【報告事項】公の施設の使用料改定について、担当課へ説明を求める。

【社会教育課：川上参事】

- ・資料No.1 「公の施設の使用料改定について」に基づき説明

【高橋会長】

使用料の値上げは、市全体として概算でどのくらいの金額になるのか。

【社会教育課：川上参事】

概算で2,600万円程度の増収になると試算している。

【高橋会長】

ほかに意見等がないので終了とする。

次に【報告事項】今後の「公の施設の再配置計画」の取組について担当課へ説明を求める。

【行政改革推進課：小酒井副課長】

- ・資料No.2 「今後の『公の施設の再配置計画』の取組について」に基づき説明

【高橋会長】

説明に対して質疑を求める。

【平野委員】

上越市として人口減少対策や職員削減計画等はないのか。

【行政改革推進課：小酒井副課長】

人口減少の対策としては、昨年度、第6次総合計画を策定した。その計画の中で、人口減少対策の取組も行っていく。また職員についても、定員適正化計画という計画を策定し、計画的に総職員数の削減や総人件費の削減を併せて取組を行っていくとしているので、しっかり対策をしていきたい。

【平野委員】

資料には人口減少による職員削減の計画が何も載っていない。計画を出してもらわないと分からない。

【行政改革推進課：小酒井副課長】

本日は計画を持参していないが、昨年度作成した内容についてはホームページ等でも

確認できるが、必要であれば後程配布させていただく。

【平野委員】

市全体の予算的な問題も含めて職員の削減や全体計画がないと何も分からない。資料に「財政不足を基金の取り崩しで補う状況が続く見込み」と記載されているが、現在の基金はいくらなのか。

【行政改革推進課：小酒井副課長】

市の財政調整基金は現在約100億円である。ただ昨年度推計した中では、今後4年間で毎年、20億円ずつ取り崩しを行うこととなり、最終年度には金額が大分減少する見込みである。

【安達副会長】

資料の「施設一覧」に「高住多目的研修センター」とあるが、そこはすでに役割を終えているのではないか。

【行政改革推進課：小酒井副課長】

高住多目的研修センターは休止中で、施設の設置条例は廃止していないため、資料に載せている。

【安達副会長】

職員削減の意見が出ているが、職員を削減すると困ることも出てくる。昨今の災害を見ても、災害が発生した時に地元のボランティアだけで対応することが難しい部分も出てくる。やはり市の職員の力が大きいのではないか。そのため単に職員を減らせば良いというわけではない。やはり行政としてやらなくてはいけない仕事があるので、その辺は考えていただきたい。

【高橋会長】

地域の方は、くわどり湯ったり村に対して大変心配している。いろいろな経営改善もしているようだ。

【行政改革推進課：小酒井副課長】

本日は再配置の取組や計画について報告する場のため、まずは総論的な話をさせていただいた。個別の施設については今後再配置候補対象となるリストを提示しながら協議させていただきたいが、くわどり湯ったり村については、経営健全化の取組の中で現在、サウンディング調査として市場調査を行った。その結果を踏まえて、今、担当課で今後どうするかを検討している。

報告できる時期になったら担当課から報告させていただきたい。

【平野委員】

お金の話は厳しい部分もあるが、上越市が財政難になったら市長が自分の身を切るとい話は出ないのか。できたら市民に迷惑を掛けないでやっていただきたい。

【行政改革推進課：小酒井副課長】

できるだけ市民の皆様には負担のないようにという思いはある。市長と副市長については以前から10%の給与削減を行っている。

【高橋会長】

上越市は多くの市町村が合併してできた市のため、施設を整理するのも大変だし、職員を急に減らすことも難しいと思っており、いろいろな課題がある。

今までは比較的それぞれの旧町村を尊重しながら考えていたような気がするが「今後は地域自治区を超えた物事の統廃合を考えていく」というようなことが資料の右下に記載されているが、学校がなくなると地域が疲弊するというのは皆さん実感として持っておられると思う。

当区の旧桑取小学校と谷浜小学校が合併する際、地域の皆さんと議論を重ねて桑取地区の皆さんからは納得してもらい現在の谷浜小学校となったが、谷浜小学校も複式学級なので名立区や直江津区と合併していくとなると、本当にここに住む人が大丈夫なのかという気がしてくる。

資料の右側の図は、その辺を含めての図のように思うがどうか。

【行政改革推進課：小酒井副課長】

この図については、イメージということで分かりやすく載せさせていただいた。学校については教育環境の整備という視点で教育委員会にて検討を行っている。おっしゃるように複式学級になっている学校もあるので、該当する生徒の立場も踏まえた上で、今後どうしていくか検討しているので、ご了承いただきたい。

【高橋会長】

他に質疑等はないので終了とする。

— 社会教育課、行政改革推進課 退室 —

次に【協議事項】地域の課題について、事務局へ説明を求める。

【滝澤センター長】

- ・資料No.4「地域の課題について」に基づき説明

【高橋会長】

事務局より、今までの話を整理してもらい、資料にまとめてもらった。すぐに結論が出る話ではないが、地域活動支援事業に提案してくれた団体の方々は自分たちの提案内容で精一杯であり、周りを見る目がなかなか十分ではないというのであれば、今後どのように繋げていくのか。町内会長協議会等の団体との連携が本当に大事だという気がする。

八千浦区や中郷区では地域の活動をリードしている団体があるが、谷浜・桑取区にも全体をリードするような組織が必要だと思っている。そう考えると、谷浜地域づくり協議会の皆さんなら活動を広げていく余地がある団体であり、今回、地域活動支援事業で提案したパンフレットも大変好評をいただいているようだ。

【安達副会長】

資料の「災害対策」についてだが、26日の小・中学校合同文化祭で行った地域交流会の後に子ども達と一緒に砂防事務所の人や関係者の方々からお話を聴いたり、小学校で備蓄している災害対策用品を見せてもらったりした。その際、小学校の避難所対応職員がどなたかを紹介されたが、そこで初めて聞いた。責任者が誰なのかというのは、年度初めの町内の総会等で説明されるのか。

【滝澤センター長】

それぞれの避難所に担当者がおり、毎年、町内会長等と打ち合わせはしていると思う。そして、避難所開設時にどのように動くか、備品等についても打ち合わせをしているのではないかと。また、防災訓練があれば担当者も一緒に立ち会って行っている。

【安達副会長】

先般の台風の際、西山寺の人が「避難してください」と言われ、谷浜地区公民館に避難してきたようだが誰もいなかったとのこと。だが、その後に当公民館に避難された人は有間川の人が多かったとのこと。

【佐藤寿美子委員】

桑取地区の指定避難所は桑取地区多目的研修センターになっている。だが、土口の方々はセンターに行った人もいれば、くわどり湯ったり村へ行った人もいる。そして、西吉尾の方々は「谷浜小学校へ避難してください」と言われたとのこと。

町内によって別々の場所へ避難されていたようだ。

【高橋会長】

市が指定避難所として設置しているのは、谷浜小学校と桑取地区多目的研修センターだが、一次避難所は各町内の町内会館等になっていると思う。

今回は大型な台風ということで上越市内28区全ての避難所を開設するということがあった。谷浜・桑取区にも避難所を開設するという市からのアナウンスがあったが、市全体を把握するために設置されたもので緊急に避難しなくても良いのではないかと考えていた。

台風が来る前に避難所を開設したため、すぐに避難した人としめない人、まだ様子見の人が多かったのだと思う。だが、名立区では土砂崩れが起き、桑取区のほうでは地すべりがあった所もあるので本当に気を抜けない。

今まで我々は津波の被害に備えて訓練を行ってきた。しかし、道路が通れなくなり孤立する人もいるため、当地区でも災害対策が必要だと前から言われてきたので、今回一つの教訓になったと思う。

他に猪や熊の被害が結構出ている。先日も有間川駅付近での目撃情報があった。

【坪田委員】

たにはま公園に猪用の電気柵を設置するという話があるようだが、それはあまり好ましくないのではないかと。公園等は人目があるのに大規模な電気柵を設置すると猪等が民家へ降りてきてしまう。そのため、住民の皆さんも電気柵を設置すれば良いのかもしれないが、経費が掛かるため難しい。

【高橋会長】

電気柵の設置について補足させていただくと、たにはま公園の全てに設置するのではない。今まで遊具の周りを3年くらい連続で猪に掘られているが、掘られる度に修理するとなると経費も掛かってくるので危ない箇所だけ電気柵を試験的に張ってみるとのこと。市では、近日中にたにはま公園管理組合と打ち合わせを行い作業に取り掛かるとのことだった。

【坪田委員】

民家の裏側にまで来ているという話もある。虫を食べるために鉢やプランターをひっくり返してしまう。そういう部分でも弊害がある気がしてならない。

【高橋会長】

公園においても猪は土の中の虫を食べるために掘り起こしているため、被害を少なくする方策として冬眠中の虫を減らすということも薬で行ってみたが、なかなかうまくい

かなかったとのこと。

昨今、具体的な課題が本当に増えてきている気がする。まさに人と共生となっているので、今後どうするかが難しい。

【佐藤峰生委員】

資料の3番目の「地域活動支援事業の各団体による連携」について、小・中学校合同文化祭で、今年提案された旧高住小学校の写真が展示されていた。近くに担当者がいたので「記念碑の除幕式等のセレモニーを行うのか」と聞いたら「具体的にはまだ考えていない」とのことだったので、新しい枝を伸ばすという意味で「同窓生にその話をしてみてはどうか、費用が必要であれば地域活動支援事業でお手伝いできるかもしれない」という話をさせていただいた。連携も必要だが、一事業と一事業とが重なって相乗効果が出るのであれば、それに越したことはない。

皆さんからも委員の立場で、地域のいろいろな提案が繋がっていくような提案をしてもらいたい。そこでは実が結ばなくても今後につながっていければ良いと思っている。

【高橋会長】

私も委員の一つの仕事は、地域に入り、地域活動支援事業等で作ったものを見たり聞いたりしながら繋げていく事も大事だと思うので是非お願いしたい。

来年の4月で地域協議会の任期が一区切りするが、我々の任期の中で4年間を総括するくらいのもりで次に繋がる芽を残していければ良いと思っている。結論を出すことは難しいが、これから残された期間も皆さんでいろいろと地域の人と関わっていただければと思う。

次に「その他」について事務局へ説明を求める。

【滝澤センター長】

次回の協議会については諮問等の案件がないため、議題が入り次第、会長・副会長と相談の上、アンケートにより日程調整し開催日を決定させていただく。

【高橋会長】

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 北部まちづくりセンター

TEL : 025-531-1337

E-mail : hokubu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。